



広報

No271

～ 文教のまち西原 ～

にしはら

町の世帯・人口
(平成6年7月末現在)

世帯数	8,641世帯
人口	27,691人
男	14,123人
女	13,568人

7月の人口移動

出生 28件	死亡 6件
転入 74件	転出 77件
婚姻 13件	離婚 4件

編集・発行／西原町役場文化広報課(広報係) 西原町字嘉手苅112番地 ☎098(946)9846 印刷／(協)丸正印刷



とじて保存すると便利です

36年ぶりに復活、道ジュネーも鮮やかに

≡≡≡ 小那覇の大綱曳き ≡≡≡

五穀豊饒、無病息災を祈り200年以上前から小那覇(中山善正区長)に伝わる大綱曳きが、8月7日午後、36年ぶりに復活しました。

同区では、かつて7年ごとに大綱曳きを行っており、道ジュネーの素晴らしさは「スネー^{ちゅう}美らさや小那覇村」と詠まれるほどでした。しかし、道ジュネーが1958年を最後に途絶えてからは、毎年、小規模の綱引きを続けてきました。

昨年の西原まつりで旗頭や太鼓などをそろえ道ジュネーをしたところ、住民120人余りが参加、これを契機に住民の結束が高まり、ぜひ続けようとの声があがったことが今回の復活に弾みをつけました。小那覇の大綱曳きは、小那覇独特の旗頭、歌「スンサーミー」、踊りなどに特徴がありますが、伝える資料がなく、新川登吉さんら古老の記憶をたよりに今回の復活となりました。(2,3頁に関連記事)



ナジナタ(長刀)、シタク(支度)とつづく道ジュネー

道ジュネーでは、前組と後組に分かれ、メモーイ(前舞い)、旗頭、ナジナタ(長刀)、同区の村芝居の登場人物「棚原ぬ若按司」や「天願ぬ按司」などのシタク(支度)、ジンナーク(銭鳴棒)、ハンシーガニ(小型の銅鑼)、ボラ(ホラガイ)、ソーグ(鉦鼓)、締太鼓、踊り手(蝶々踊・鶴亀踊・前ぬ浜・稲摺り踊・花売りの踊・汗水節踊・扇の舞)、トツクイ小(狂言者)などの順序で整列し、ボラの音を合図に、参加者全員

の掛け声とソーグの調子に合わせて出発しました。小さな子どもたちからお年寄りまで

参加し、沿道からは盛んに声援が送られていました。青年たちは、旗頭が台風の影響で強風にあおられながらもガイーで氣勢をあげました。

小那覇公民館広場で、シタクの乗った雌雄の綱がカヌチ棒で結ばれると一気に綱が曳かれ、ドラや鉦が激しく打ち鳴らされる中、子どもからお年寄りまで汗だくになりながら懸命に綱を曳き、まつりは最高潮を迎えました。綱曳きが終わると旗頭ガイー、マチガイー、踊りガイーが行われ、勝利をおさめた組から先に始められました。小那覇の綱曳きは2回曳くことになっていて、2度目はおおかつ初回の負け組に勝ちを譲ることになっています。前組が勝つと「弥勒世界報」、後組



子孫繁栄を願って、綱を曳く(後組)



ボラの音を合図に、道ジュネーは始まる

が勝つと「子孫繁栄」と伝承されています。
三十六年ぶりに復活したスネーを一目見ようと、たくさんの方が町内外から訪れ、賑



蝶々踊で華を添える

わいました。
また、この日は町内各地で綱引きが行われました。



バチさばきも軽やかに(締太鼓)



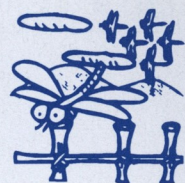
子どもたちもかわいらしく、道ジュネーに参加



旗頭のガーイーで氣勢をあげる青年たち

写真コーナー

でーびる



どちらが勝っても踊で祝う



『弥勒世界報』を願って綱を束く(前組)

仲里恵子さんが町代表に

平成六年度町「婦人の主張大会」

町婦人連合会(奥那嶺絹子会長)は、平成六年度「婦人の主張大会」を、八月十日午後、町中央公民館で開催しました。

の成長はもちろん、婦人の社会的視野を広げ、地位向上と地域発展のため貢献できるものと信じています」と述べました。

これは、地域に内在する諸問題を主体的に取り上げ主張しあうことにより、婦人の社会的視野を広げ、連帯を密にし、婦人の地位向上と意識の高揚を図ることが目的。

会員約百人が参加する中、五人の発表者は堂々と主張しあい、会場から盛んに拍手を送られていました。

大会では、平安恒政町長をはじめ来賓多数が出席。会長あいさつで奥那嶺会長は「自身の豊かな体験を生かした主張をしあうことによって自ら

結果は「リサイクルと私」のテーマで発表した坂田支部の仲里恵子さんが最優秀賞に選ばれました。仲里さんは町代表として中頭郡大会に出場します。

張をしあうことによつて自ら

なお、発表した方々及びテーマは次のとおり(敬称略)。

▽最優秀賞・仲里恵子(坂田支部)「リサイクルと私」

▽崎山弘子(兼久支部)「環境浄化は身近から」

▽太田利江子(坂田支部)「婦人会活動に参加して」

▽又吉妙子(兼久支部)「心の時代によせて」

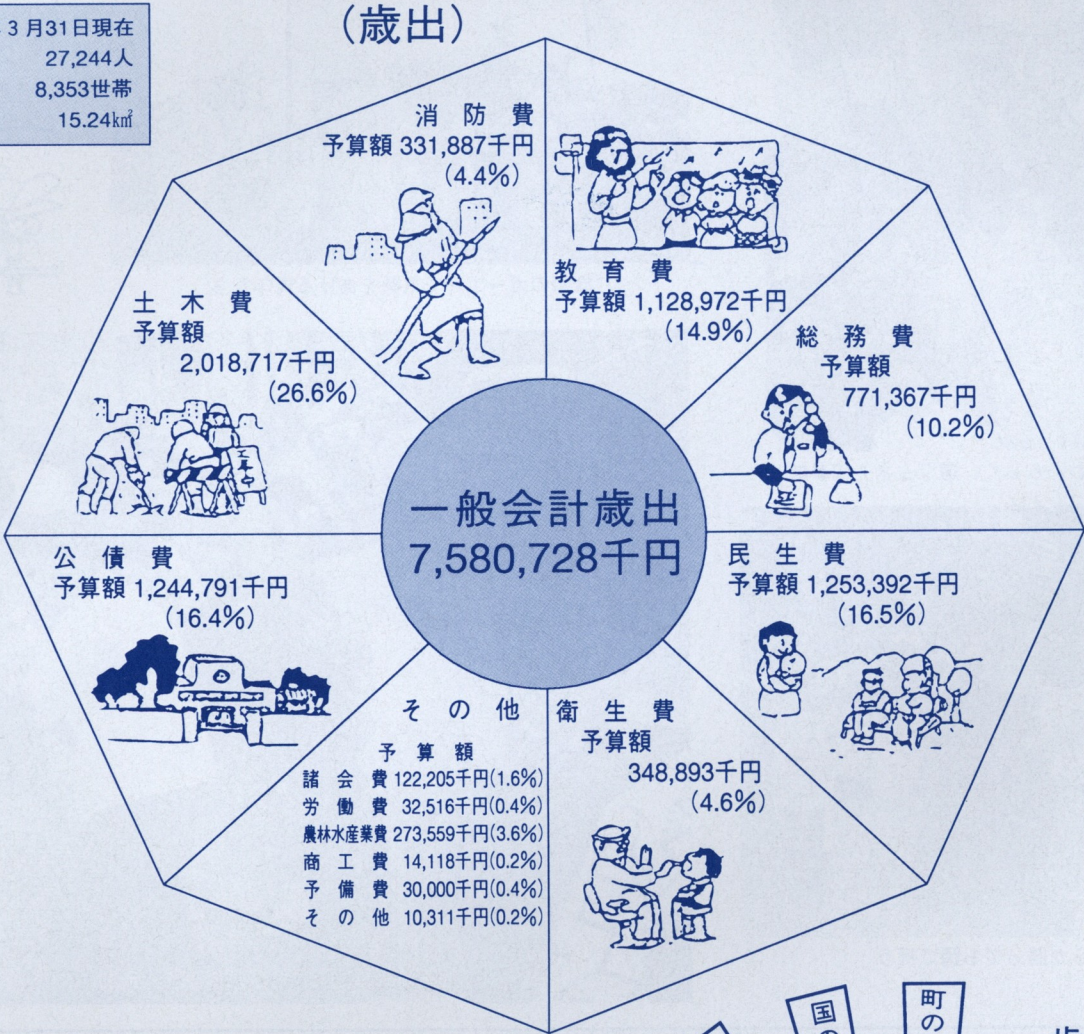
▽阿波連アイリン(翁長支部)「国際結婚を通して」



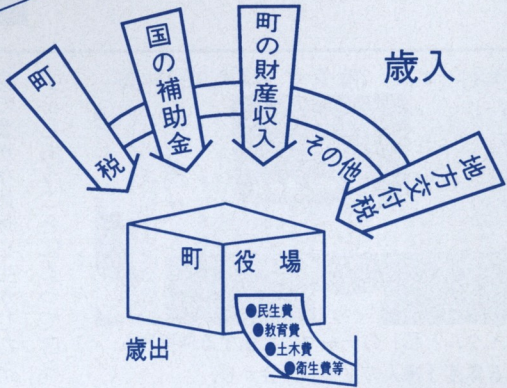
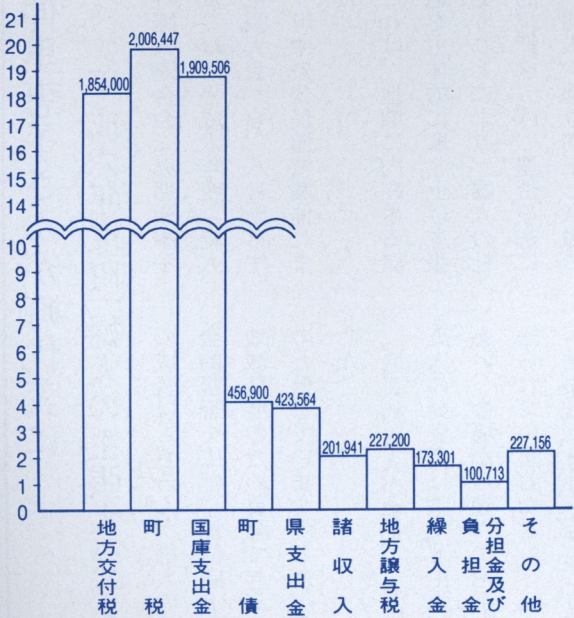
「リサイクルと私」のテーマで主張する仲里さん
(平成6年度「婦人の主張」大会から)

平成6年度一般会計予算の状況

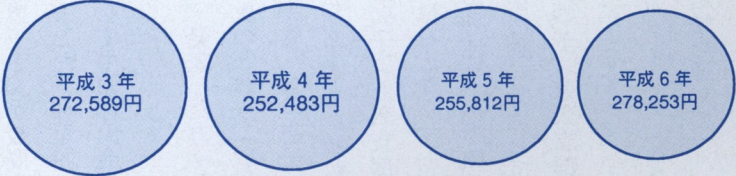
平成6年3月31日現在
人口 27,244人
世帯数 8,353世帯
面積 15.24km²



(歳入) (単位: 千円)



※歳出を西原町民の人数で割れば、支出負担額になる。



町民一人当りの支出負担額

平成5年度町一般会計歳入歳出予算執行状況(目的別)

【歳入】				【歳出】			
単位：千円、%				単位：千円、%			
款	予算額	収入額	執行率	款	予算額	支出額	執行率
1.町税	1,927,528	1,886,283	97.9	1.議会費	126,960	125,899	99.2
2.地方譲与税	223,200	234,692	105.1	2.総務費	980,818	667,920	68.1
3.利子割交付金	45,200	42,598	94.2	3.民生費	1,198,056	1,129,690	94.3
4.ゴルフ場利用税交付金	49,600	50,681	102.2	4.衛生費	363,579	353,215	97.1
5.自動車取得税交付金	22,300	22,002	98.7	5.労働費	32,128	31,233	97.2
6.地方交付税	1,988,290	1,999,573	100.6	6.農林水産業費	198,764	137,291	69.1
7.交通安全対策特別交付金	3,000	3,373	112.4	7.商工費	10,331	10,087	97.6
8.分担金及び負担金	99,698	97,517	97.8	8.土木費	2,184,816	1,386,482	63.5
9.使用料及び手数料	38,589	40,320	104.5	9.消防費	304,862	304,862	100.0
10.国庫支出金	1,793,801	896,185	50.0	10.教育費	1,274,399	1,109,766	87.1
11.県支出金	313,194	147,534	47.1	11.災害復旧費	8,254	1,261	15.3
12.財産収入	54,887	55,252	100.7	12.公債費	847,577	845,330	99.7
13.寄附金	5,288	5,888	111.3	13.諸支出金	1	—	—
14.繰入金	72,004	1,348	1.9	14.予備費	38,603	—	—
15.繰越金	111,632	111,632	100.0	歳出合計	7,569,148	6,103,036	80.6
16.諸収入	213,937	195,007	91.2				
17.町債	607,000	5,600	0.9				
歳入合計	7,569,148	5,795,485	76.6				

西原町財政事情書

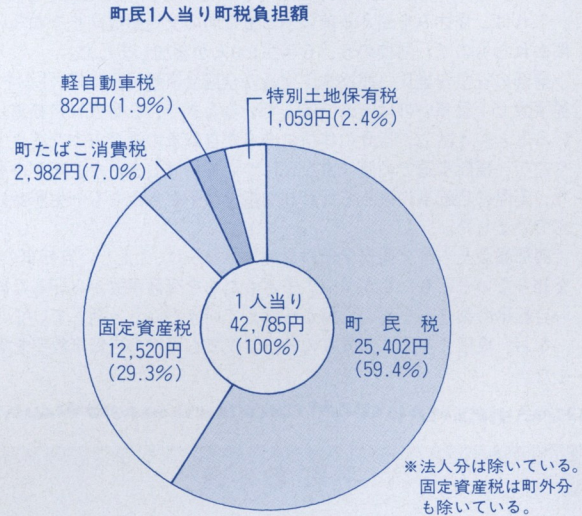
平成五年度下半期
地方自治法第二四三条の第三項および西原町財政事情書の作成及び公表に関する条例第四号の規定により平成五年度下半期（平成六年五月三十一日現在）の財政事情書を公表します。
平成六年五月三十一日 西原町長 平安恒政

町債の償還状況			
借入額	元金償還額	元金未償還額	償還率
8,593,200,000円	1,633,369,162円	6,959,830,838円	19.0%

土地	建物	基金
368,083.91㎡	55,096.35㎡	1,359,303,257円

※但し、土地は道路、河川用地は除く

有価証券	出資による権利	車輛
20,014株	1,614口	45台
19,388,650円	116,837,500円	



平成5年度町水道事業特別会計予算執行状況			
単位：千円			
収入	予算額	659,170	執行率(100.3%)
	収入額	661,123	
支出	予算額	667,634	執行率(98.4%)
	支出額	656,853	

収入	予算額	127,053	執行率(100.2%)
	収入額	127,277	
支出	予算額	249,522	執行率(97.7%)
	支出額	243,786	

企業債の償還状況			
単位：円			
借入額	元金償還額	元金未償還額	償還率
887,900,000	75,184,872	812,715,128	8.5%

◎企業の固定資産総額(2,043,332)千円

【歳入】			
単位：千円、%			
款	予算額	収入額	執行率
1.国民健康保険税	453,883	418,220	92.1
2.一部負担金	2	—	—
3.使用料及び手数料	500	558	111.6
4.国庫支出金	753,779	556,094	73.8
5.療養給付費交付金	55,635	46,985	84.5
6.県支出金	1	—	—
7.共同事業交付金	11,029	9,213	83.5
8.財産収入	1	—	—
9.繰入金	149,156	149,155	100.0
10.繰越金	58,725	58,724	100.0
11.諸収入	2,659	8,883	334.1
歳入合計	1,485,370	1,247,832	84.0

【歳出】			
単位：千円、%			
款	予算額	支出額	執行率
1.総務費	59,695	54,429	91.2
2.保険給付費	959,120	810,644	84.5
3.老人保健拠出金	420,603	385,552	91.7
4.共同事業拠出金	9,176	9,174	100.0
5.保健施設費	8,784	7,136	81.2
6.基金積立金	1	—	—
7.公債費	1	—	—
8.諸支出金	10,121	9,646	95.3
9.予備費	17,869	—	—
歳出合計	1,485,370	1,276,581	85.9

【歳入】			
単位：千円、%			
款	予算額	収入額	執行率
1.支払基金交付金	768,590	689,800	89.7
2.国庫支出金	277,086	250,463	90.4
3.県支出金	69,272	56,861	82.1
4.繰入金	69,272	69,272	100.0
5.繰越金	7,527	7,526	100.0
6.諸収入	55	1,647	2,994.5
歳入合計	1,191,802	1,075,569	90.2

【歳出】			
単位：千円、%			
款	予算額	支出額	執行率
1.医療諸費	1,184,220	1,092,053	92.2
2.諸支出金	7,579	7,575	99.9
3.予備費	3	—	—
歳出合計	1,191,802	1,099,628	92.3



自転車に正しく乗って事故防止

正しく自転車に乗って事故防止をーと、西原町交通安全母の会(奥那嶺絹子会長)は、7月11日午後、西原南小学校で自転車安全教室を開きました。これは、夏休みを迎える前に子どもたちの交通事故防止をねらいとして開かれたもので、同校の5、6年生150人が参加しました。

講師の安里安雄氏(浦添地区交通安全協会事務局長)は、「小学校の交通事故で1番多いのは道路で遊んでいるときに、2番目に自転車に乗っているとき」と話し、自分の体格に合った自転車の選び方や交差点での右折や左折、横断歩道での渡り方などについて指導しました。モデルを使ったり、実際に自転車に乗って行われた指導に子どもたちも一生懸命に取り組んでいました。

奥那嶺会長ら町交通安全母の会のメンバーは、「正しい自転車の乗り方を知らない子どもたちが多く、子どもたちを交通事故から守るため、正しい自転車の乗り方を親の立場から訴えていきたい」と話していました。

なお、坂田、西原、西原東の各小学校でも同様の自転車教室を実施しました。



“一芸”で地域に奉仕

友愛訪問ボランティアグループ「御座持かりゆし会」(當間清子会長)が、6月21日に結成され、特別養護老人ホーム「守礼の里」でハチウクシー(初仕事)をしました。

同会は、人との交流を通して地域社会に奉仕しようと結成されたもので、唄や三味線などの一芸を持った15人で構成。

「守礼の里」では、唄、三線、踊りを披露、おじいさんやおばあさん方も手拍子を叩いたり一緒に唄を口ずさむなど大喜びでした。特に「ムトゥヌワカサ(昔の若さ)」を歌うとうら若き娘時代を思い出して涙を流して聴き入るおばあさんの姿も。

當間会長は「楽しみながら、学びながら仲間づくりをしていきたい」と話していました。「御座持かりゆし会」では、今後老人ホームや福祉施設、更生施設等への友愛訪問など地域のニーズに応じた活動を行う予定。

なお、同会では会員を募集中です。主旨に賛同する方であれば、どなたでもかまいません。

お問い合わせは、當間清子御座持かりゆし会会長☎945-1429まで。



平成6年度

西原町さとうきび生産振興対策協議会総会

町さとうきび対策協が平成6年度総会

町さとうきび生産振興対策協議会(宮平定昌会長)は、7月25日午後、西原共同福祉施設で平成6年度総会を開催しました。

同協議会は平成5年9月17日に設立され、サンライズ農業協同組合、町役場、町議会、町農業委員会、中部農業改良普及所、中部地区さとうきび振興対策協議会、原料委員会、区長会、翔南製糖株式会社など9つの団体及び生産農家代表で組織されています。

総会では、約70人が出席するなか、平成5年度事業報告や決算書の承認、平成6年度の事業計画や予算案、協議会の設置要綱の一部改正について話し合われ、原案どおり可決承認されました。

新会長の長嶺由光さん(町農業委員会会長)はあいさつの中で「さとうきび作を取り巻く状況は厳しいが、西原の地域特性を活かしたさとうきび生産の振興に向けて力を合わせよう」と述べました。



環境美化で住みよい町づくり

明るく住みよいまちづくりは環境美化からーと、町(平安恒政町長)では、7月27日を「西原町道路排水愛護デー」と設定し、町内の主な道路や河川、海浜等の共同清掃作業を実施しました。町内の各自治会、町婦人会、町内事業所などから約400人が参加し清掃に協力しました。

作業に先立ち、平安恒政町長は「道路と排水施設は日常生活になくてはならないもの。莫大な資本を投入したこれらの施設をみんなで大事にしよう」とあいさつしました。

実施場所は、内間一小那覇線、小波津川、海浜、幸地川の4カ所で、今回で13回目。参加者たちは鎌や草刈り機、チリ袋を手に道路沿いの雑草を刈り取ったり、空き缶を拾い集めたり。準備されたトラックの荷台はゴミや雑草で見る見るいっぱいになっていました。

強い日差しの中、汗だくになりながら清掃してくださったみなさん、ご協力大変ありがとうございました。



講演会のもようと講師の松田美夜子さん(右下)

リサイクルとまちづくり講演会を開催

ごみを減らすためには実践しないとダメですよ」と『リサイクルとまちづくり講演会』が七月二十六日午後、町中央公民館で開かれ、好評を博しました。

講演の前にリサイクルマーク及び標語の部の表彰から行われ、先に一般公募した中から最優秀賞及びアイデア賞がそれぞれ表彰されました。また、講演に先立ちあいさつした平安恒政町長は「本町は今年十月から『川口方式』を採用し、全区で分別収集を

実施する予定。全町民がごみの減量化に取り組もう」と述べました。

その後、松田美夜子氏(リサイクル実践家・厚生省「ごみ減量化・再利用専門委員会委員」)による「ごみはすてきな魔法つかい」と題する講演が行われました。

松田氏は「私は普通の主婦です。良いお母さんになるためには物を大切にすると子供たち・公共ルールをきちんと守る子供を育てること。そのためには父母が実践することです」と述べ、ごみとのかかわりや川口方式の実績、市町村の廃棄物処理対策、ヨーロッパ各国の動向など、具体的にスライドを使いながら説明しました。松田氏は最後に「沖縄でリサイクルできる商品を買おうにし、このまちが好きと言えまことに」と話しました。

約二百人の参加者らは、熱心に耳を傾けていました。なお、表彰された方は次の

冠婚葬祭を考えよう

——新生活運動フォーラム——

「ホンネで語ろう冠婚葬祭のあり方」をテーマに、新生活を考えるフォーラムが八月六日午後、町中央公民館で開かれ、小川良夫町助役(平安恒政町長代理)や宮平宗輔町議会副議長ら約三百人が参加しました。

リサイクルマーク標語が決まりました!

リサイクルマークの部(最優秀賞)
作者 富原秀朝さん

標語の部(最優秀賞)
作者 諸見里米子
「リサイクル 心豊かなあなたが主役」

通り(敬称略)。
△リサイクルマークの部△
△最優秀賞・富原秀朝△
△アイデア賞・小川真貴子、与那嶺努、仲宗根正子△
△標語の部△
▽最優秀賞・諸見里米子、比嘉昭子、上原茂、安里剛

これは、お祝い金や香典など派手になりがちな冠婚葬祭をいま一度考え直してみよう」と、平成六年六月に発足した西原町女性団体連絡協議会(長崎ノブ会長)が主催したもの。

主催者あいさつの中で長崎会長は「物質的な豊かさを享受できる今、生活が華美になつていないか、見栄や無駄、交際を重視するあまり過剰にお返しをしないかを、いま一度みんなで話し合い、考えてみましょう」と述べました。

パネリストは城間富子さん(サンライズ農協西原婦人部長)、知名定光さん(宜野湾市長田自治会長)、宮平貴美子さん(浦添婦人連合会レク



フォーラムのもよう

部長)の三人で、それぞれ地域で取り組んでいる実践例を報告しました。

城間さんは引出物やお祝いのお返しなどがありがた迷惑になっている実例を紹介、身近な生活態度の見直しを訴えました。

知名さんは自治会、婦人会、老人クラブ連合会が一体となつて、香典は千円以内、香典返しは廃止するなどの立て看板を設置する運動に取り組んだことを紹介しました。

宮平さんは自治会長や青年会などが葬儀会場で参列者の封筒の中身を調べるなど徹底した運動の結果、今ではみんなから喜ばれていると活動状況を紹介しました。

フロアーとのディスカッションの後、助言者として赤嶺千壽さん(沖縄県婦人団体連絡協議会長)が「贈り物をしたりされたりという行為の本質的なものは何かをしつかりおさえておくことが大切。まずは足元から見直していき、主体性のある一人ひとりの決断と勇気が大事」と述べました。



比嘉さん、道路愛護で表彰される

8月10日の「道路の日」にちなみ道路公団、県内各自治体などで構成する「道路を守る月間」地方協議会は、沖縄総合事務局で道路清掃など道路愛護の活動をしてきた功労者に対し感謝状を伝達しました。表彰をうけたのは3個人、3団体で、西原町からは比嘉玄吉さん(字呉屋123-2)が表彰されました。

比嘉さんは、西原中学校の周囲約700メートルを、20年間にわたり清掃しており、路面清掃と中学校の生徒たちの環境美化に対する意識の高揚が認められたもの。「夏は朝の5時から7時、冬は朝6時から8時まで、病気、雨天以外は毎日清掃している」という頑張り屋の比嘉さん。これからも健康に気をつけながら道路愛護の模範として頑張ってください。

宮城さんが町人材育成会に100万円

「ふるさとの人材育成に役立ててください」と、宮城善勝さん(丸宮溶接工業所代表)が、7月29日、町人材育成会(平安恒政会長)に100万円を寄付しました。

宮城さんは、本町小橋川の出身で、現在は大阪市淀川区で特殊工作機械を作る工業所を経営しており、創業50周年を記念して「何かふるさとへ出来ることはないか」と今回の寄付を思いついたそうです。

宮城秀明さん(善勝さんの長男)から寄付金を手渡された小川良夫町助役(平安会長代理)は、「速くにいてもふるさと思う気持ちはありがたい。有効に使わせていただきます」とお礼を述べました。



文化財保護審議会委員に委嘱状

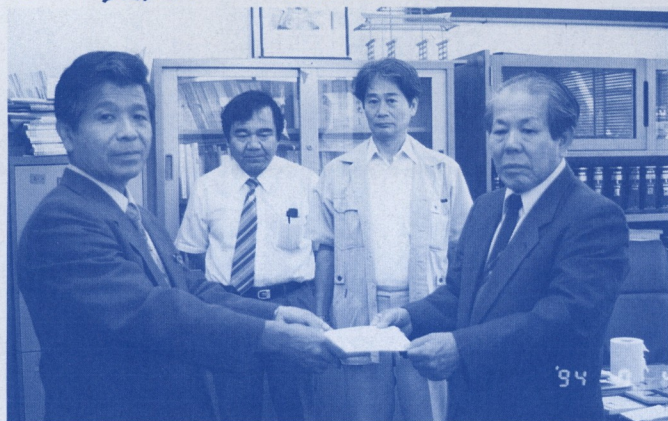
町教育委員会(稲福恭助教育長)は、西原町文化財保護審議会委員5人に委嘱状を交付しました。

町文化財保護審議会委員は、町の文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、町教育委員会に建議することになっています。任期は2年。

稲福教育長は「それぞれの専門分野の立場から本町の文化財保護行政に意見を述べてください」とあいさつしました。

新会長に選出された城間光雄氏は「内閣御殿の史跡指定などさまざまな文化財保護事業を控えているが、教育委員会と連携しながら委員一同町の文化行政の発展に尽くしたい」と抱負を述べました。

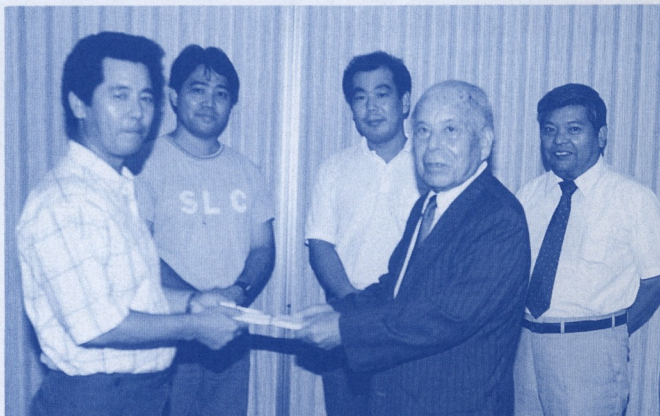
なお、委員は次のとおり(敬称略、()内は専門分野)。
 ▽会長一城間光雄(歴史一般) ▽宮平實(民族学) ▽當眞嗣一(考古学)
 ▽嘉手苺千鶴子(古代歌謡、おもろ) ▽マ那城義春(自然)

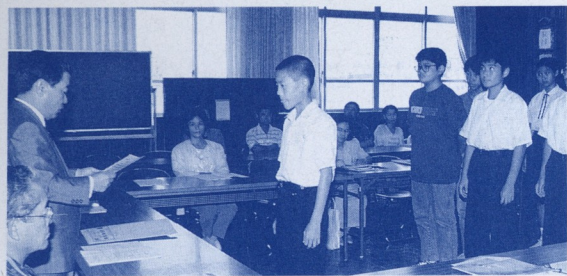


チャリティー公演で町社協に30万円

どうぞ町の福祉事業に役立ててくださいと、由絃曾仲宗根盛次民謡・古典研究会チャリティー公演第2回発表会「歌持」実行委員会(宮平光英実行委員長)のメンバーが8月11日午後、町社会福祉協議会(宮平吉太郎会長)を訪れ、30万円を寄付しました。

これは、5月29日に浦添市民会館で行われた同チャリティー公演の収益金からの寄付で、寄付金を手渡された宮平会長は「ご厚意に応えられるように有効に使わせていただきます」と、同実行委員会の善意に感謝の言葉を述べました。





平安町長から認定証を交付される、ジュニアピースメッセンジャーたち

平和の使者十二人に認定証

町(平安恒政町長)では、将来の恒久平和の担い手である中学生を、八月四日から六日までの三日間、被爆地の広島市に派遣しました。

これは、平和推進事業の一環として行われたもので、昨年まで親子平和使節団として町内の小・中学生とその親を広島市に派遣していたものを、七回目の今年から中学二年生を対象に町内の中学校から十二人を選考、ジュニアピースメッセンジャーとして派遣しました。

出発に先立ち、七月二十二

親子で学ぶ平和のありがたさ

第7回親子で学ぶ戦争追体験平和バスツアー

沖縄戦の実相と風化しつつある戦争体験を子孫に正しく伝承しようとして「第七回親子で学ぶ戦争追体験平和バスツアー」が、八月十二日に実施されました。

これは、平成四年三月三十日に施行された「西原町平和条例」に基づき、平和行政を全町民に推進し戦争

日午後には、認定証の交付と事前研修が行われました。認定証の交付式で平安町長は「西原は去る大戦の激戦地で、当時の人口の約半数近くが犠牲となりました。すべての原点である平和は、天から降ってくるものでなく、世界の人々が認識を持つてつくり上げるもの。私たちの町で行う平和事業も世界から見れば小さな点かもしれないが、やがて線や面となって広がっていく

れば」とピースメッセンジャーの意義を強調しました。

生徒を代表して親川夏希さん(琉球大学附属中学校二年)が「将来を担う私たち若者が、近い将来の平和を目指して頑張ります」と力強く決意を述べました。

平安町長を団長とする一行は、広島赤十字・原爆病院の慰問や広島平和記念資料館の見学、被爆体験者との交流会、広島市内の中学生との戦争や平和についての意見交流会などを行いました。

体験を子孫に正しく伝承していくため、親子で町内、県内の

の戦災跡地や平和記念資料館などを訪ね、戦争の悲惨さや無益さを学び、平和の尊さについて実地で学習することにより平和に対する町民の意識の高揚を図ることが目的で、町(平安恒政町長)と町教育委員会(稲福恭助教育長)が主催。

バスツアーの出発式で平安町長は「西原町が、去る沖縄戦で当時の人口約四十七パーセントを失った激戦地であつ

西原東中バレー部男子、8度目の栄冠

「やったぞ、九州制覇だ!」-1994年度九州中学校体育大会が8月7日、九州各県の会場で行われ、バレーボール男子で西原東中学校バレーボール部(仲本賢一朗監督)が春夏通算8度目の栄冠を獲得しました。

佐世保市体育文化館(長崎県)で行われた決勝戦で、西原東中は宮崎県代表・八代中学校と対戦しました。第1セットでは、先にセットポイントを取られながらも粘りに粘って逆転、第2セットからは完全に西原東ペース。サーブで相手を崩しては、エース玉那覇顕久君が豪快にスパイクを打ち込むパターンでセットポイント2-0のストレートで勝ち、九州制覇を果たしました。

同バレーボール部は、8月8日午後、松川邦雄校長と仲本監督に引率され、町役場を訪れ、優勝報告をしました。報告を受けた稲福恭助教育長(平安恒政町長代理)の「全国大会でも上位目指して頑張ってください」という励ましに、同バレーボール部員も意欲満々でした。

また、8月16日には、町人材育成会(平安恒政会長)から北海道で行われる全国大会への助成金110万円が交付されました。平安会長は「全国大会にでるチームは強豪ばかり。頑張ってください」と激励しました。仲本監督は「1回戦の対戦相手の東京代表は前年度優勝の強豪。全力でぶつかって。旗(優勝旗)をもって帰りたい」と決意を述べました。

たことはあまり知られていない。平和の尊さを学び、次の世代へ伝えられる人となってほしい」とあいさつしました。

平和バスツアーには、約百四十人の親子が参加、バス三台に分乗しました。西原の塔で一分間の黙とう、献花を行い、本町の戦況説明を受けました。宇小波津地内の旧日本軍陣地壕跡、南風原陸軍病院跡、糸数壕(アブチラガマ)、平和祈念資料館、ひめゆり平和祈念資料館などを「平和ガイドの会」メンバーの説明を受けながら見学、戦争を追体験しました。

親子3人で参加した母親の吉田里律子さんは「話には聞



南風原陸軍病院壕跡で

見える言葉Ⅱ手話で話そう

聴覚障害者への理解を深め、情報提供の扶助をしよう
と、町社会福祉協議会(宮平
吉太郎会長)主催による手話
サークルが開催されました。

「どこまでできるか試してみたい」、「できればいいな」とテレビの手話ニュースを真似したりしていたが基礎から学びたいと思った。将来は指導員を目指したい」と参加した動機もさまざま。

講師は長嶺峰子さん。社会福祉法人沖縄県身体障害者福祉協会手話通訳者Ⅱで、自己紹介から始まって、耳の聞こえない人とのコミュニケーション方法である①ゆっくり話して口の形で判断してもらう②筆談③身振り④手話などそ



手話を教える長嶺さん

広げよう、ボランティアの輪

それぞれの長所と短所を学びました。「タマゴとタバコ、アメと雨など似たような言葉は口の形で判断するのはあやふやで難しい。身振りを加えるなどすると良い。筆談ではなるべく漢字を使ったほうがよい。ひらがなのみだと誤解が

高校・大学生ボランティア体験学習」から「小学生親子ふれあいボランティア学習」(七月二十八日)・「中学生

お年寄りや障害がある人たちとふれあい、学ぶことを通してボランティアの意義と活動の輪を広げようと、「平成六年度ボランティア体験学習」が、町社会福祉協議会(宮平吉太郎会長)主催により開催されました。

アイマスクをつけた歩行と車イス体験をする参加者たち
〔「中学生ボランティア学習」から〕

生じやすい。漢字だと読めなくても形を覚えているので分かりやすいし、できればふり仮名をつけたほうがよい。手話は健聴者からでなく耳の聞こえない方から学ぶほうが力がつく」といった長嶺さんの話に、参加者たちも熱心に聞き入っていました。

その後に、「おはよう」「よ

ボランティア学習」(七月二十五日)・「高校・大学生ボランティア体験学習」(八月二日・三日)の三部に分れて行われました。

「小学生親子ふれあいボランティア学習」と「中学生ボランティア学習」の参加者た

ろしく願います」などあ
いさつの手話を学び、「四季の歌」をみんなで手話を使っ
て覚えました。

長嶺さんは、サークル員たちに「一日に一つずつ覚えて行くこと。焦らず長く根気よく続けていくこと。話し言葉と同様に手話にも敬語がある。ゆっくり丁寧に」とアド

ちは、オリエンテーションのあと、午前中は町内の福祉施設を見学(「特別養護老人ホーム守礼の里(施設長布垣勝征)」、「精神薄弱者更生施設愛泉園(施設長金城吉夫)」、「老人保健施設池田苑(施設長山城正光)」)、午後はアイマスクをつけた歩行・車イス体験をしました。

「高校・大学生ボランティア体験学習」の参加者たちは、オリエンテーション後、前出の町内福祉施設に移動し、施設見学だけでなく、食事補助やベッドシート交換、入浴介助などを体験しました。また、町社会福祉センターで新城信子さん(沖縄コロニーセンター勤務)の講演「ボランティ

バイスしていました。

期間は七月二十六日から九月二十七日までの十回、毎週火曜日の午前十時から、社会福祉センターで行われます。あなたも、是非一緒に参加してみませんか。

お問い合わせは、町社会福祉協議会 ☎ 九四五―三六五 一まで。

ア活動について」を聴き、同センターで一泊しました。翌日は、アイマスクをつけて歩行・車イス体験をしました。

それぞれの全体会では「ふだんは馴染みのない福祉施設を見学できてよかった」、「精神薄弱者というところがいまいじがあつたが、全然そんなことはなかった」、「ほんの少しのデコボコが、車イスや目の不自由な人にとってはとても不便だということを実感した」、「できる範囲でいいから手をかしてあげたい」など、体験してはじめて分かる不自由さやボランティアの意義を述べる意見がありました。

《9月は障害者雇用促進月間です》

障害者の雇用は「国連、障害者10年」を契機として、事業主の皆様をはじめ関係各位のご高配とご協力を得て、年々改善が見られるところであります。

しかしながら、まだ多くの障害者が就労の機会を待っている状況にあり、このようなことから雇用の場を拡大し、働く意志と能力のある障害者が健全者とともにごく自然に働ける社会を実現していく必要があります。

障害者の雇用を促進するには、障害者自身の職業的自立への努力に加えて、障害者の雇用の場を確保することが極めて重要であります。このため障害者の雇用に関して県民一般、とりわけ事業主の皆様のご理解とご協力を得ることを目的として、毎年9月1日から9月30日までを「障害者雇用促進月間」と定め、県民運動を展開しているところであります。

当職業安定所におきましても、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づく、障害者雇用率達成指導、各種雇用助成措置、職業訓練受講指示等、諸々の対策を講じ障害者の雇用の促進を図っているところであります。

つきましては、事業主の皆様が各種助成金制度をご活用されまして、「障害者雇用促進月間」を契機に、働くことを希望する障害者に一人でも多くの雇用の場を与えていただきますようお願いいたしますとともに、障害者の雇用拡大について、尚一層のご理解とご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

那 覇 公 共 職 業 安 定 所

住 所 那覇市旭町12番地

電話番号 867-6472 (代表)

お知らせ

でーびる



案内・募集

リサイクルとまちづくり 講演会のお知らせ

- ・演題 「生ごみ処理とEMの活用」
- ・講師 比嘉照夫氏 (琉球大学農学部教授)
- ・日時 1994年9月8日(木)午後7時~午後9時
- ・場所 西原町中央公民館
- ・主催 西原町

EM(有用微生物)で生ごみ処理を手軽に行い、ごみを良質の有機肥料や環境を浄化する材料に変えることが可能になります。毎日家庭から出される生ごみをムダに捨てることなく、役に立つものに变身させて再利用できるとは一石二鳥。

生ごみリサイクルは、私たちにできる身近なEM活用法です。さらに環境問題等へEMの可能性について学ぶ機会にしましょう。町民多数の参加を呼びかけます。

※お問い合わせは、
町役場保健衛生課(945-5013)まで

「自治大臣への提案ファックス」 — ふるさとファックス — 設置のお知らせ

この度自治省では、広く国民の皆様から、地方公共団体や地方自治に関する制度をはじめ、地方税、地方財政、選挙制度、地方公務員、消防、ふるさとづくりへ向けた地域活性化など、地方行政に対する自治大臣への積極的な提言をいただくため、「自治大臣への提案ファックス」—ふるさとファックス—を設置しました。

寄せられた提案の中で、具体的提言を含むものにつきましては、自治省で検討を行い、行政に生かしていきたいとしております。

国民からの意見を直接聴く試みは、国民の声を行政に反映させるためにも意義深いものと考えられますので、皆様方の積極的な提言をお願いします。

なお、本件についての問い合わせは、下記をお願いします。

ファックスの名称 「自治大臣への提案ファックス」—ふるさとファックス—
ファックス番号 03-3581-6987
受付時間 午前9時~午後6時まで
(土、日、祭日を除く。)
できれば、住所、氏名、電話番号をご記入ください。

お問い合わせ先
自治大臣官房広報室 広報係
TEL03-3591-0279 (直)

9月(SEP.)行事・祭事予定

- 1日(木)○麻疹(12ヵ月～48ヵ月児、13:00～13:45、町中央公民館)
○2学期始業式
- 2日(金)○3歳児健診(H3.5.28～H3.6.24生まれ、13:30～14:15、社会福祉センター)
○町社協食事サービス(9日、16日、13:00、社会福祉センター)
- 3日(土)○町役場閉庁
○町少年少女水泳大会(14:30、西原小学校プール)
- 4日(日)○映画上映会(町中央公民館)
- 6日(火)○比嘉照夫琉球大学農学部教授講演会「生ごみ処理とEMの活用」19:00～21:00 町中央公民館
- 7日(水)○離乳食実習(乳児、13:30、町中央公民館)
○心配ごと相談14:00～17:00(14日、21日、28日、社会福祉センター)
- 10日(土)○町役場閉庁
- 11日(日)○町議会議員選挙
- 13日(火)○老人と子どもの集い(16:00から17:00、西原東児童館)
- 15日(木)○敬老の日
○町役場閉庁
- 17日(土)○町役場閉庁
- 18日(日)○第15回町陸上競技会 9:00 町民陸上競技場
- 23日(金)○秋分の日
○町役場閉庁
- 24日(土)○町役場閉庁
- 25日(日)○西原小、西原東小運動会
- 28日(水)○町議会臨時会 10:00(新議員による初議会)

10月(OCT.)行事・祭事予定

- 1日(土)○町役場閉庁
- 2日(日)○西原中学校文化祭、西原東中学校体育祭
- 3日(月)○3歳児健診(H3.6.25～H3.7.19生まれ、13:30～14:15、社会福祉センター)
○高齢者健康づくり教室(5日、7日、12日、14日、17日、19日)
- 4日(火)○子宮・乳ガン検診(20歳以上(女)、11日、24日、13:30～14:30、町中央公民館)
- 5日(水)○心配ごと相談14:00～17:00(12日、19日、26日、社会福祉センター)
- 6日(木)○ポリオ(3ヵ月～48ヵ月児、13日、13:00～13:45、町中央公民館)
- 7日(金)○町社協食事サービス(14日、21日、28日、13:00、社会福祉センター)
- 8日(土)○町役場閉庁
- 10日(月)○体育の日、町役場閉庁
○生き生きスポーツ大会

(都合により日程変更もあります。)

スポーツ・プログラマーは、第一種と第二種があります。第一種は主に地域のスポーツクラブや公共スポーツ施設において、第二種は主に商業スポーツ施設において、スポーツ活動をする人の相談・指導・助言に当たります。スポーツ・プログラマーの養成は、(財)日本体育協会などで講習会が行われています。平成六年四月現在の資格取得者は、第一種で九百七十一人、第二種で二百四十六人、合計すると一千二百一十七人です。

平成6年度沖縄県林業改良指導員資格試験の実施について(お知らせ)

平成6年度沖縄県林業改良指導員資格試験を、下記のとおり実施します。

1. 試験日時
平成6年11月10日(木) 午前9時から午後5時
2. 試験場所
県庁9階第4会議室(那覇市泉崎1-2-2)
3. 受験願書受付期間
平成6年9月1日～9月30日まで(郵送の場合は平成6年9月30日付けの消印のあるものまで受け付ける)。
4. 手数料
2,300円(受験願書に沖縄県収入印紙を貼ること)
5. お問い合わせ先
沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号
沖縄県農林水産部林務課
(☎866-2295)

ぜひ ご協力を!

——与那国台風災害被災者
救援義援金募集について——

8月7日与那国地方を直撃した台風13号は、与那国島に多大な被害をもたらした。全壊18世帯、半壊27世帯の被害が承認されています。そこで、日本赤十字社沖縄県支部では、被災者救援のため義援金を募集しています。みなさまの温かい気持ちをお寄せ下さい。

詳細については、

日本赤十字社沖縄県支部西原町分区分(町役場福祉課☎945-5311(内122)まで。

スポーツ・プログラマー



吉集の歴史書